

ちば経済フラッシュ

千葉県経済の動き — 中小企業動向を中心に —

概況

県内経済は、IT関連産業で生産調整の動きが見られるため、全体としてはこれまでの回復ペースが緩やかになっている。

最終需要面では、県内小売業の販売動向は盛り上がり欠ける状態が続いている。住宅投資は三か月連続で前年比プラスとなっている。輸出は1月に十四か月ぶりに前年を下回ったが、3月は前年比増加し、高水準が続いている。県内企業の05年度設備投資計画（全産業）は、04年度実績額を上回り、堅調な状況が続いている。この間、千葉県鉱工業生産指数は、一進一退の動き（12月・九三・九↓1月・九四・七↓2月・九三・九）が続いているが、水準は全国に比べて低い。

県内小売業では、新型車発売効果の続く乗用車販売や第三世代携帯電話の販売などが堅調に推移しているが、百貨店・コンビニ・家電販売・ホームセンター等の売上げが前年を下回っている。

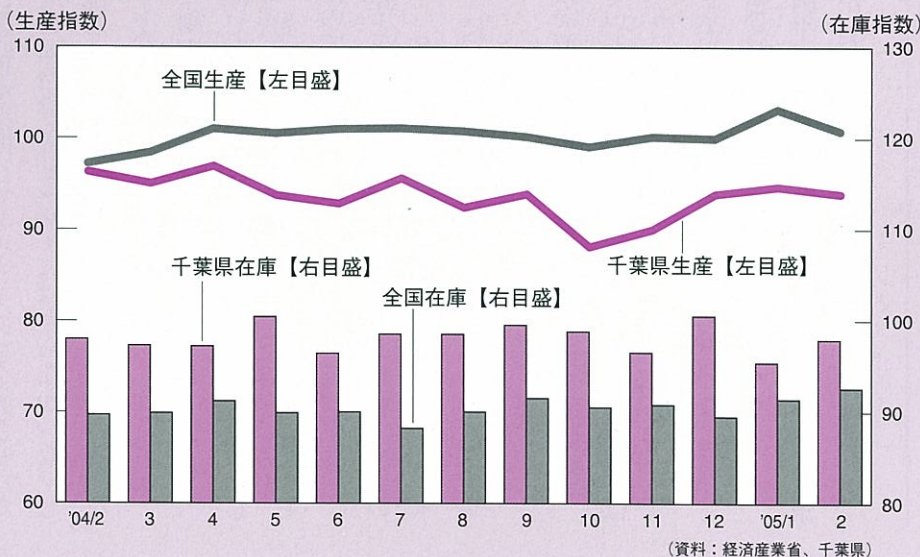
1～3月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+五・五%と再び増加に転じた。なかでも、分譲住宅（同+三二・五%）が好調に推移している。1～3月期の公共工事請負額は同▲十九・六%と三期連続二ケタ減少した。4月実施の千葉県企業経営動向調査によれば、04年度設備投資額（全産業）実績は03年度実績比+七・〇%増加、05年度計画も04年度実績を+〇・七%上回り、企業の投資意欲の堅調さがうかがわれる。

雇用面では、千葉県の1～3月期の有効求人倍率（季調済）は〇・八一倍と十一期連続で改善が続いている。県内企業の中には、過去の人員絞り過ぎの反動や技術の継承等から、派遣社員の正社員への登用や新入社員の採用数を増やすなど、前向きな動きも見られる。

4月に発生した中国の反日運動の県内企業への影響は限定的なものに留まっている。県内企業では、邦人だけの会食禁止や中国出張を自粛する先も一部で見られたが、全体としては通常どおり出張しているケースが多いなど、今のところ現地の操業等に支障をきたしている先は見当たらない。ただ、旅行代理店では4月以降の中国ツアーの申し込みがほとんどなくなるなどの影響が出ている。

（酒井）

■ 鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、2000年=100）



消費関連

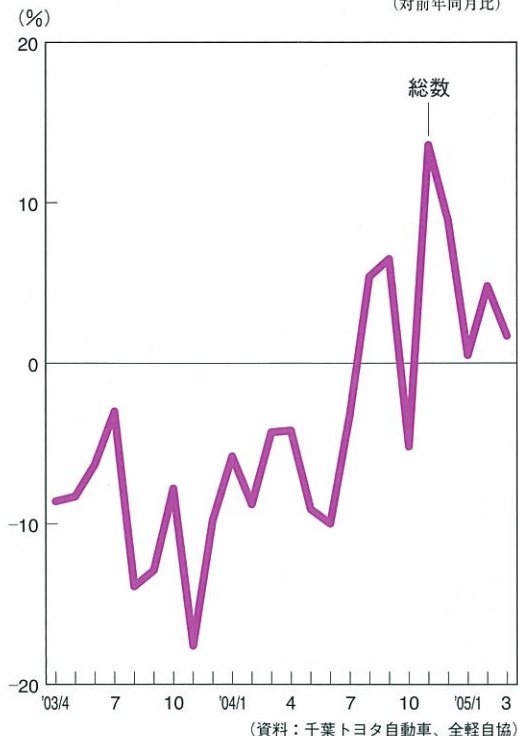
県内小売業の販売動向は、新型車発売効果による乗用車販売やインターネット通信販売など一部で上向きの動きが見られるが、全体としては盛り上がりには欠ける状況が続いている。

すなわち、県内の乗用車新車登録台数（軽を含む）は、新型車発売効果から04年8月以降前年を上回っているほか、旅行取扱業界の販売実績も、海外旅行中心に増加が続いている。

3月期の売り上げは、主力の春物衣料品が振るわず、四期連続で前年を下回った。コンビニの売り上げも新業態の台頭で競合に拍車がかかり前年割れした。家電販売は、パソコン等の売り上げ伸び悩みが響き、全体ではマイナスが続いた。ホームセンターの売り上げも他業態との競合が激化し減少した。家具販売は単価の下落を主因に、外食産業も来店客数の減少などから、それぞれ前年を下回っている先が多い。南房総の観光・宿泊施設の利用者数は、花摘み等の日帰りバスツアーは増加したが、宿泊に結びつかず減少した。（関）

■千葉県乗用車新車登録台数伸び率（軽を含む）

（対前年同月比）



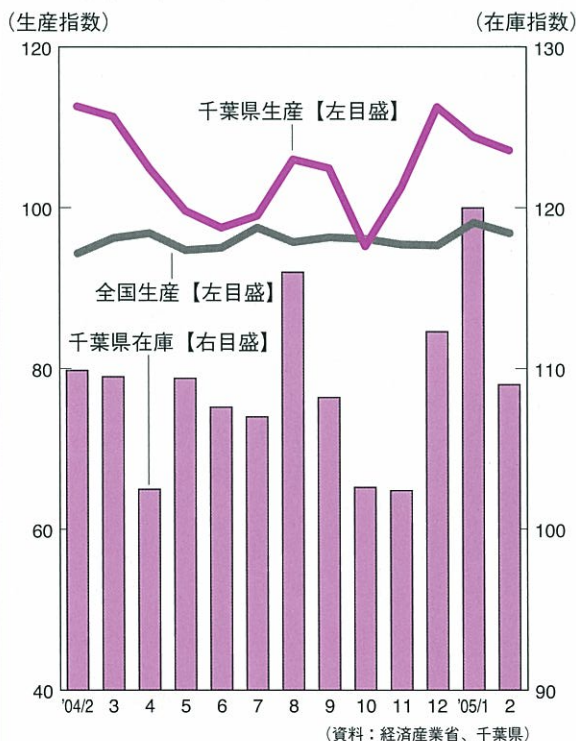
食料品

県内食料品メーカーの生産BSIは、三期連続で「悪化」超となり、マイナス幅が拡大した（04年10月12月期▲八・六↓05年1月3月期▲十一・一↓4月6月期見通し〇・〇）。4～6月期は前年同期並みを見込んでいる。メーカーによる業況のバラツキは大きい。デフレが続く消費マインドが盛り上がりを見せない中、仕入価格や、原油高を背景としたプラント燃料（重油）、包装資材などの値上がりでコストは確実に上昇している。

03年末～04年初に発生した国内外の鳥インフルエンザ、米国のBSE騒動から一年が経過した。消費者の需要面では、鶏肉の需要は戻ったが、牛肉の流通量は高値もあって減少したままである。このため、家庭用の牛肉関連調味料などの販売量は低水準が続いている。供給面では、米国产牛肉の輸入禁止が続く、鶏肉（生肉）もタイ、中国など主産地からの輸入禁止が続いている。輸入可能なブラジル産鶏肉は国際間需給がタイト化し、国産価格とともに上昇が見込まれ、加工業者は収益悪化を懸念している。（癸生川）

■食料品の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年＝100）



住宅・建設

1～3月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+5・5%増加した。利用関係別には、分譲住宅（同+31・5%）が大幅に増加した。分譲住宅の内訳を見ると、分譲マンション（同+58・3%）が大幅に増加し、分譲戸建（同+14・4%）も一〇期連続の増加を続けている。

1～3月期の県内公共工事の発注状況（請負金額）は、三期連続で二ケタの減少が続いている（04年7～9月期▲15・8%→10～

12月期▲17・3%→05年1～3月期▲19・6%）。発注先別に見ると、市区町村（同+7・3%）を除き、地方公社（同▲58・9%）、公団・事業団（同▲25・8%）、国（同▲24・4%）、都道府県（同▲13・8%）で大幅に減少した。

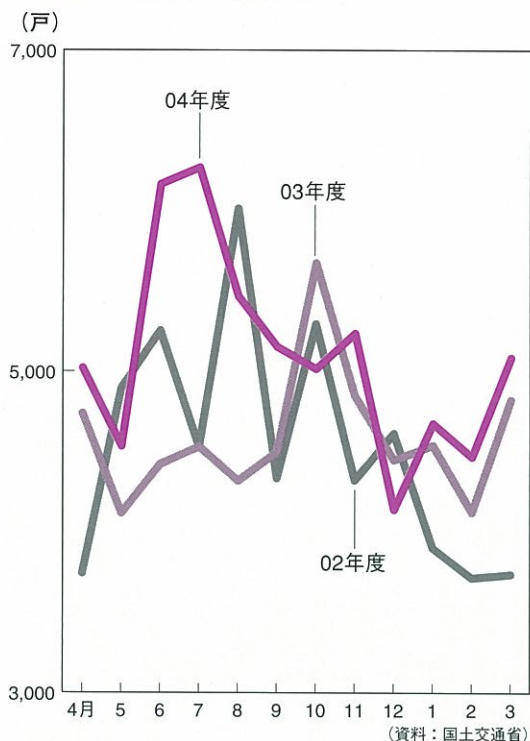
県内公共工事は減少が続いているため、住宅メーカー以外の建設業者は、資産家向け収益物件など民間工事主体の営業に注力している。建設用鋼材の調達については、価格は依然として高止まりしているものの、品薄は沈静化し逼迫感（ひっ迫感）はなくなってきた。（癸生川）

機械

県内電気機械メーカーはIT関連で大企業の生産・在庫調整が依然続いており、底ばい状態を脱していない。4～6月期も工場では人員を削減した状態が続くと見る向きが多いが、7～9月期には底を脱し、再び生産は増加に転じようとの期待感が強い。要因としては、①在庫調整も、底ばい状態の中でも徐々に終盤に向かいつつあるとの見方が強まっていること、②デジタル家電の需要自体は堅調であること、③中国や欧州といっ

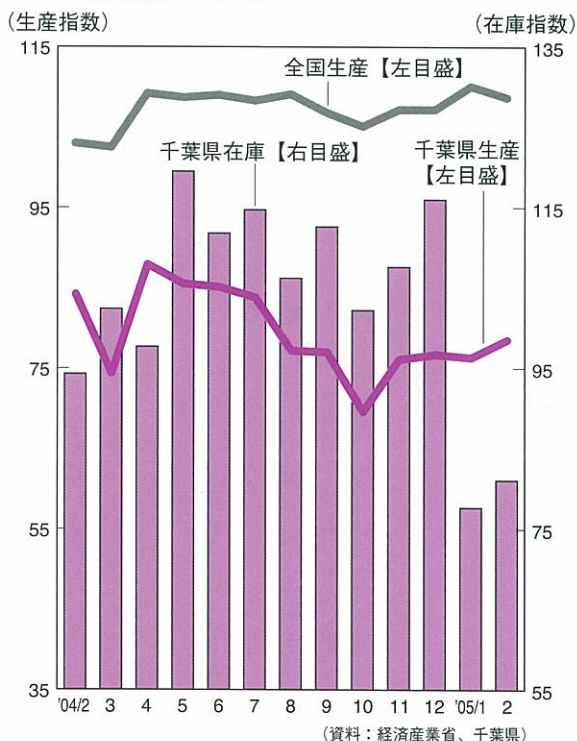
た海外の携帯電話市場の裾野の拡大、等があげられる。（酒井）
県内一般機械メーカーの1～3月期の生産BSIは引き続き高水準で推移（04年7～9月期二五・〇→10～12月期三〇・六→05年1～3月期二三・五）している。鉄鋼価格は依然として上昇傾向にあるが、供給不足の問題はかなり改善された。自動車関連産業などで高い操業度が続いている。中国の反日デモ激化を受けて現地法人を持つ企業では、デモの飛び火に備え、出張自粛のほか、社名入りバスの運行停止、邦人だけの会食禁止などの対応策を取ったところもあった。（癸生川）

■千葉県新設住宅着工戸数



■機械の生産・在庫指数

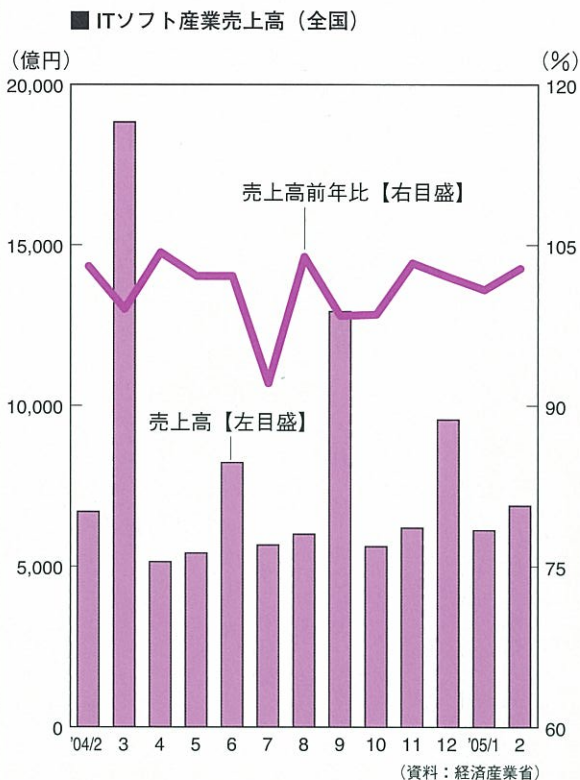
(季節調整済、2000年=100)



ITソフト

情報サービス業（全国）の売り上げは四か月連続で前年実績を上回り堅調に推移している（1月…同+0.8%、2月…同+2.8%）。主力の「受注ソフトウェア」は1月に三か月ぶりに前年を下回った（同▲0.5%）ものの、2月は同+7.0%と大幅に増加した。従業者数は、常用従業者数はほぼ同数だが、派遣従業者数は増加（1月…同+11.3%、2月…同+15.5%）している。

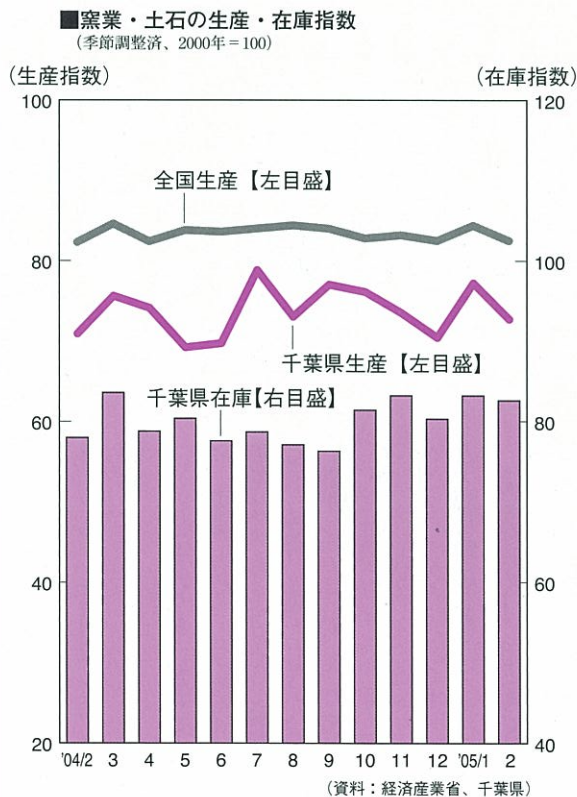
注は減少するが、05年度は個人情報保護法の施行等により、企業のシステム関連に対する投資意欲は衰えず、受注は増加傾向にある。そのため、ソフト会社では開発に携わるシステムエンジニア（SE）不足の状態が続いており、派遣社員の正社員化や新卒の採用増など、正社員を増加させる動きも出ている。大手人材派遣会社では、SEに対する需要が旺盛なため、企業に提示する時給単価を4月から前年比10%程度値上げした。企業側としては、長期間有能なSEを確保したいとの思惑から応募するケースが多い。（酒井）



窯業・土石

生コンの県内主要協同組合（北部・西部・中央）の出荷量は大幅に増加し、三期連続で前年同期を上回った（前年同期比…04年7～9月期+2.7%→10～12月期+2.1%→05年1～3月期+2.4%）。

安・市川・船橋などでも、浦安を中心としてマンション建設が依然として活発。また小中学校の建設計画もあり、夏以降再び需要が増大すると見込んでいる（同…+2.3%→+2.9%→+4.0%→+4.3%）。千葉中央地区（千葉・市原・四街道など）でも、1月まで蘇我特定地区整備事業があり出荷は堅調に推移した（同…▲4.8%→+13.6%→+11.6%）。生コン業界では、昨年4月に製品価格を5%値上げしたが、その後、骨材・砂・軽油価格等が上昇し収益環境が悪化したことから、秋ごろをメドに再値上げの時期をうかがっている。（癸生川）



鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

1～3月期の県内高炉メーカーの粗鋼生産量は、前年の関係で前年同期比やや減少したが、生産水準は高くフル操業が続いている。アジア向け輸出が引き続き好調に推移し、国内も自動車向けを中心に堅調に推移した。高炉メーカー各社の05年度の原材料輸入価格は、中国の需要急増を受けて、鉄鉱石（前年比一・七倍）、石炭（同二・二倍）とも大幅な高値で決着した。このため、価格転嫁分として一万

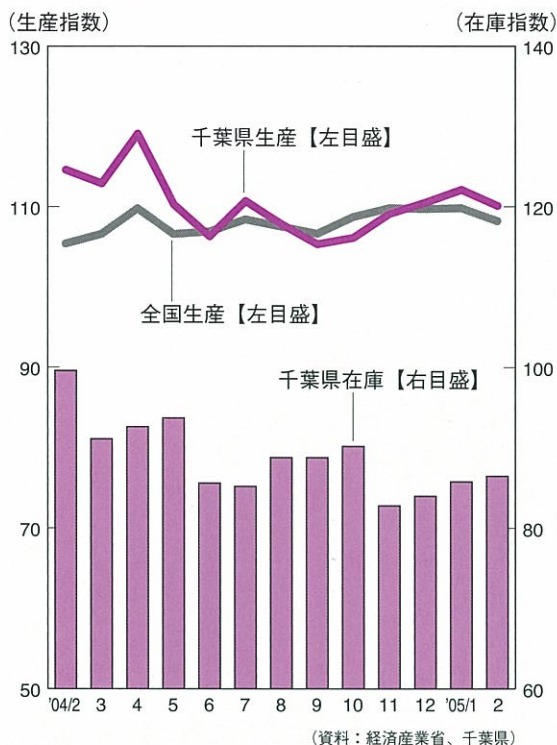
円/t（同+一〇・二〇%）の値上げを打ちだしている。（癸生川）

石油・化学

県内の化学メーカーは国内外需給のタイト化により、フル操業が続いている。ナフサ価格は4月に入り三万八〇〇〇円/kg前後（前

年10～12月期比+八・五%）まで上昇しており、一部大手原料メーカーでは原材料価格のさらなる値上げを検討している。一方、中小加工メーカーは仕入価格の高騰に対し、最終需要家に対するさらなる価格転嫁は困難としているが、経費削減で吸収するのは限界に達しているとの声も多く、ナフサ価格の動向に警戒感を強めている。（酒井）

■鉄鋼業の生産・在庫指数
（季節調整済、2000年=100）



農業・漁業

農業

1～3月期の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が五万六九〇四t（前年同期比▲七・四%）、平均価格が一六五円/kg（同+十九・九%）となり、出荷金額は九四・一億円（同+十一・〇%）となった。今冬のキャベツの生育は、昨秋の台風や2月の寒さなどで小ぶりだった。そのため、出荷量は前年同期比▲十八・〇%減少したが、灯台印（銚子産）のキャベツは市場での人気が高く、平均単価

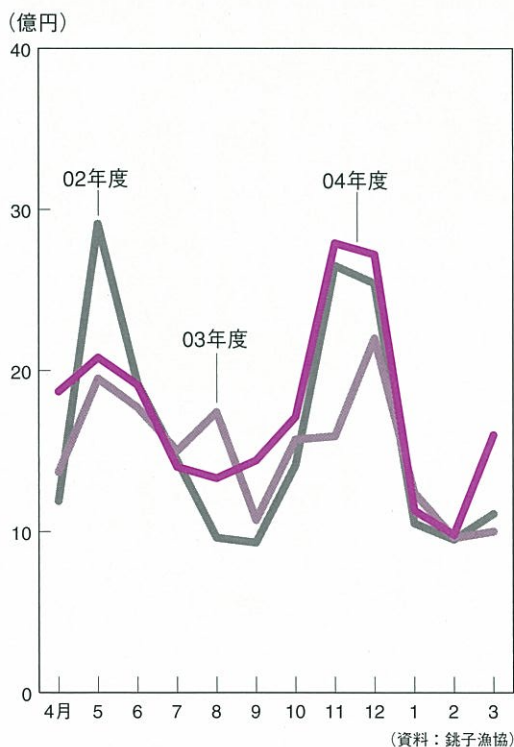
は同+四六・三%上昇、出荷額も同+十九・九%増加した。（酒井）

漁業

1～3月期の銚子漁港の水揚げは、数量（六万三三〇二t・前年同期比+七・五%）、金額（三七・一億円・同+十六・〇%）とも増加した。イワシ、アジは不振だが、サバはジャミサバ（小型のマサバ）主体に数量で同七・七倍と大幅に増加した。

勝浦漁港の1～3月期の水揚げは、数量（二〇〇四t・前年同期比▲三七・〇%）、金額（八・九億円・同▲十七・九%）ともに減少した。主力のカツオは不漁で、マグロ類も豊漁だった昨年に比べ半減した。（癸生川）

■銚子漁港の水揚げ額



雇用

千葉県の1～3月期の有効求人

倍率(季調済)は、十一期連続で改善し、〇・八一倍まで回復した

(04年7～9月期〇・六七倍↓10

12月期〇・七九倍↓05年1～3

月期〇・八一倍)。3月単月では

〇・八三倍となり、全国との格差

も縮小した(全国:同〇・八五倍

↓〇・九〇倍↓〇・九一倍、3月

〇・九一倍)。雇用形態別には、

一般〇・六六倍(前期比+〇・〇

四倍)、パート一・二九倍(同+

〇・〇二倍)となっている。

1～3月期の有効求人数(季調済、月平均)は、全体で前期比+

二・五%と三期連続で増加した。

雇用形態別に見ると、一般(同+

四・七%)は増加したが、パート

(同▲一・六%)はわずかに減少し

た。一方、有効求職者数は同▲〇・

三%と七期連続で減少している。

1～3月期の求人(季調済、月平均)も、

新規求人数(季調済、月平均)は、

同+〇・四%と三期連続の増加。

雇用形態別に見ると、一般(同+

〇・八%)は増加したが、パート(同

▲〇・二%)はほぼ横ばいとなった。

業種別に見ると、医療・福祉、建

設業などで増加し、運輸業、製造

業などで減少した。(発生川)

企業経営 動向調査(BSI)

1～3月期の県内企業の業況判

断BSI(全産業)は、▲五・二

と前回(04年10～12月期+二・

七)比▲七・九悪化した。製造

業、非製造業ともに悪化し、特に

製造業は▲七・一(前回比▲十

三・二)と大幅に悪化した。非製

造業では大企業が三・五(同+

四・七)と唯一改善したが、中小

企業が▲九・三(同▲八・七)と

大幅に悪化したため、全体では▲

三・一(同▲二・二)と小幅悪化

した。業種別に見ると、製造業で

は、鉄鋼・非鉄金属(同▲二八・

四)、食料品(同▲二三・七)な

どが著しく悪化し、非製造業で

は、新車効果で自動車ディーラー

が好調だった小売(同+二二・

〇)を除き、全業種で悪化した。

先行き(全産業)の業況判断で

は、製造業は改善、非製造業は悪

化を見込み、全体で▲四・八とわ

ずかな改善を見込んでいる。

05年度の設備投資計画(全産業)

は、04年度実績を+〇・七%上回

った。製造業は同+三七・一%増

加し、非製造業は同▲三八・八%

減少する。04年度実績は、期初計

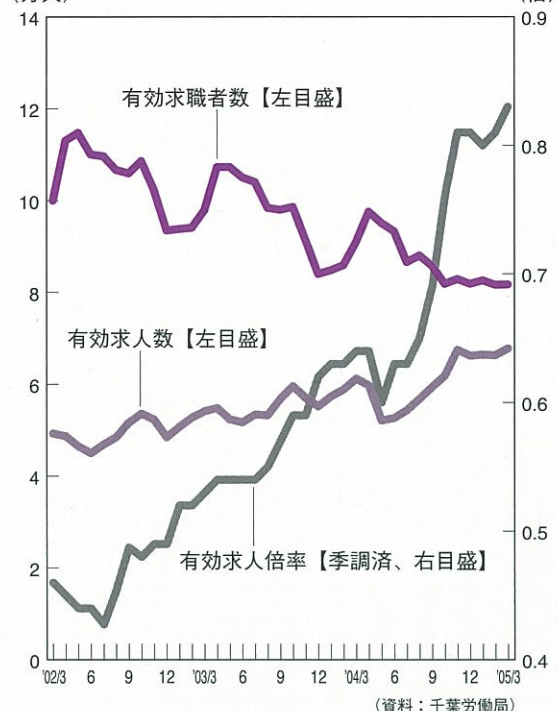
画比▲九・〇%減少したが、前年

比+七・〇%増加した。(発生川)

■千葉県内労働需給状況

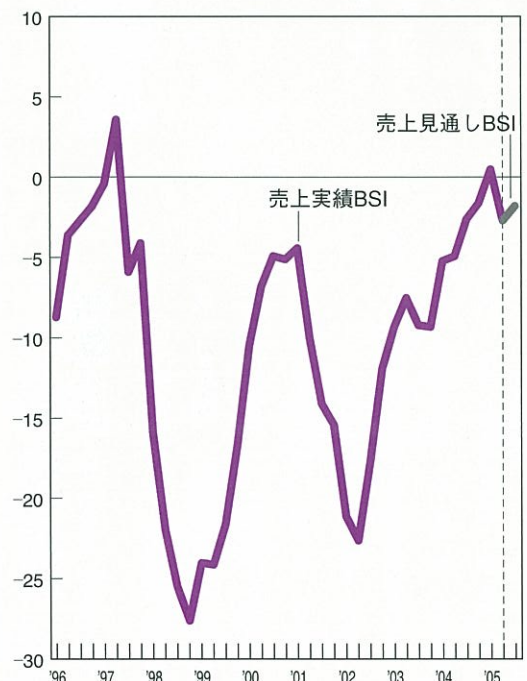
有効求人・求職者数
(万人)

有効求人倍率
(倍)



(資料：千葉労働局)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



(資料：千葉経済センター(財)ひまわりベンチャー育成基金)

注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2